

衛生統計学

1. 目的

統計学の基礎を学び研究結果や統計資料を解説する能力を養う。また歯科における指標を習得し、衛生士になった際に現場で使用する歯口清掃や歯周疾患のIndexを身につける。

2. 授業計画：講義

- 1 疫学
- 2 歯科疾患の疫学
- 3 スクリーニングと国家統計
- 4 標本抽出と度数分布
- 5 基本統計値および相関
- 6 う蝕のIndex
- 7 歯周疾患および歯口清掃のIndex
- 8 テスト前練習問題

3. 教科書：「口腔衛生学－口腔保健統計を含む－」第4版学建書院

4. 評価の方法：本試験の点数のみで判定します

5. 授業時間数：15時間

7. 教員実務経験概要：歯科医師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院および歯科医院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、歯科疾患の疫学指標を復習しつつ、衛生統計に関する基礎知識とその手法が理解できるよう指導している。

口腔外科学

1. 目的

口腔を原発とする疾患の概要と全身疾患の部分症状として現れる口腔病変につき習得する。
また、口腔外科手術の概要とともに手術を受ける患者様に対し、術前、術中、術後での衛生士の役割についても学ぶ。

2. 授業計画：講義

- 1回目：口腔外科とは
おもな診査、検査と治療法 全身疾患の理解
- 2回目：先天異常と発育異常
顎顔面の損傷
- 3回目：口腔粘膜疾患
炎症
- 4回目：嚢胞
良性腫瘍 悪性腫瘍
- 5回目：顎関節疾患 唾液腺腫瘍
神経疾患 血液疾患
- 6回目：処置・小手術の実際とその介助①
- 7回目：処置・小手術の実際とその介助②
- 8回目：全身麻酔下手術の概要

3. 教科書：歯科衛生士講座「口腔外科」(永末書店)

4. 評価の方法：単位試験

5. 授業時間数：30時間

7. 教員実務経験概要：歯科医師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、口腔を原発とする疾患の概要と全身疾患の部分症状として現れる口腔病変や、口腔外科手術の概要、術前・術中・術後での衛生士の役割を理解できるよう指導している。

歯科矯正学

1. 目的

矯正治療の目的、治療年齢に応じた顎・顔面・歯列の発育、不正咬合の原因、不正咬合の診断、治療内容の実際などを習得して、矯正治療の中での診療補助・予防処置・口腔衛生指導を歯科衛生士が柔軟に行える素地を養う事にある。また、不正咬合の原因である口腔にまつわる様々な悪習癖の除去への指導等、歯科衛生士にとって重要な役割についても授業を行っていく。

また、歯科矯正学の立場からみた目的に留まらず、他の歯科専門領域と連携協力することにより、さまざまな口腔顎顔面領域の疾患に対してより良い総合的な歯科治療を患者に提供することを目的として学習する。

2. 授業計画：講義（板書、PCを用いた視覚教育）

①歯科矯正学概論

行動目標（SBOs）：

1. 矯正治療の目的や意義を説明できる。
2. 成長発育の定義を理解できる。
3. 成長発育の4つの型を説明できる。
4. 上下顎の成長発育について説明できる。

②正常咬合、不正咬合の種類と分類

行動目標（SBOs）：

1. 正常咬合について説明できる。
2. 不正咬合について説明できる。
3. Angleの不正咬合の分類を説明できる。
4. 不正咬合の原因を説明できる。

③矯正診断に必要な資料と診断、矯正力と歯の移動

行動目標（SBOs）：

1. 矯正歯科診断に必要な検査項目を列挙しその意義を説明できる。
2. 模型分析について説明できる。
3. 頭部エックス線規格写真分析について説明できる。
4. 矯正力と歯の移動について説明できる。

④矯正装置・保定装置、矯正治療の実際1

行動目標（SBOs）：

1. 矯正装置の分類を説明できる。
2. 矯正装置の種類とその構成を説明できる。
3. 矯正装置の使用目的と適用時期を説明できる。

4. 不正咬合の分類と矯正治療について説明できる。

⑤矯正装置・保定装置、矯正治療の実際2

行動目標（SBOs）：

1. 矯正装置の分類を説明できる。
2. 矯正装置の種類とその構成を説明できる。
3. 矯正装置の使用目的と適用時期を説明でき装着時の指導ができる。
4. 不正咬合の分類と矯正治療について説明できる。

⑥矯正治療に用いる器具と材料

行動目標（SBOs）：

1. 矯正治療に用いる器具・材料について説明できる。
2. 器具材料の用途について説明できる。
3. 装置装着時の補助や注意点について説明できる。

⑦矯正治療における歯科衛生士の役割

行動目標（SBOs）：

1. 矯正治療における歯科衛生士の役割について説明できる。
2. 筋機能療法(MFT)について説明できる。

⑧小テスト、復習

3. 教科書：『歯科矯正学』 (医歯薬出版)
歯科国家試験パーフェクトマスター歯科矯正学 (医歯薬出版)

4. 評価の方法：

単位試験では、全般からまんべんなく出題し、広範囲の習熟度を判定する。

5. 授業時間数：30時間

7. 教員実務経験概要：歯科医師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、矯正治療の目的、治療年齢に応じた顎・顔面・歯列の発育、不正咬合の原因等を習得し、矯正治療の中での診療補助・予防処置・口腔衛生指導を歯科衛生士が柔軟に行える素地を養うことができるよう指導している。

高齢者・有病者歯科学

1. 目的

高齢者の口腔内は一般成人と異なった特徴を持っています。また、高齢者は全身的、心理的および社会的状態においても、一般成人と同列に扱うことは出来ません。社会の高齢化に伴い、歯科治療を受ける高齢者は急激に増加することが予想され、衛生士にとって高齢者の特徴を理解しておくことは必要不可欠です。そこで、歯科衛生士として必要な高齢者の知識を習得するとともに、高齢者に対する歯科診療の介助、口腔ケア指導ならびに対応について習得することを目的とします。

2. 授業計画：講義

- 第1回 高齢者・有病者歯科学 総論
高齢者・有病者の環境
- 第2回 高齢者・有病者の全身状況
- 第3回 高齢者・有病者の口腔状況
- 第4回 高齢者・有病者への歯科衛生士の役割

3. 教科書：「高齢者歯科学」 医歯薬出版社

4. 評価の方法：単位試験・レポート・小テスト

5. 授業時間数：15時間

7. 教員実務経験概要：歯科医師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯科衛生士として必要な高齢者の知識・高齢者に対する歯科診療の介助・口腔ケア指導・対応が習得できるよう指導している。

衛生行政・社会福祉

1. 目的

歯科衛生士は、国家免許を要する専門職種として歯科医療や歯科保健活動に携わる。その身分や業務は法に規定・制約され、様々な制度やしくみに密接に関連している。衛生行政・社会福祉の講義においては、歯科衛生士が歯科医療や歯科保健活動に従事する上で必要な法・制度などの社会学的知識を習得し、行政的・社会的に円滑に業務を遂行できるようになることを目的とする。

2. 授業計画：講義

1. 歯科関連法規1（歯科衛生士法）
2. 歯科関連法規2（歯科医師法、歯科技工士法、歯科口腔保健法、医療法）
3. 医療関係職種、その他関連法規
4. 社会保障1（概論、社会保険）
5. 社会保障2（医療保険）
6. 社会保障3（介護保険）
7. 社会福祉
8. 医療の動向

3. 教科書：「保健・医療・福祉の制度」 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験

5. 授業時間数：30時間

7. 教員実務経験概要：歯科医師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

1次～3次医療圏における予防歯科を含む歯科保健活動の経験を基に、歯科衛生士として業務を遂行するために必要な法・制度についての講義を行う。

歯科麻酔学

1. 目的

歯科麻酔学とは、歯科治療や手術中の痛みを取り除くだけでなく、安全で快適な歯科医療を行うための全身管理学である。歯科治療時やスケーリング中にも全身的偶発症が発生する可能性がある。そこで、歯科衛生士にも血圧や脈拍などのバイタルサインの評価、救急蘇生を含む緊急時の対応について、その基礎を理解すると同時に、適切な診療補助行為が求められる。さらに、近年、歯科においても循環器系を中心とした全身的な疾患をもった患者の受診が増えており、これら患者の歯科治療時における全身的な管理の補助が求められる。本講義は、歯科麻酔学の必要性、基本的な知識の習得を過去の国家試験問題を取り入れて行う予定である。

2. 授業計画：講義

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1. 1限：歯科麻酔学概論
2限：局所麻酔 | 3. 1限：精神鎮静法
2限：全身麻酔法 |
| 2. 1限：バイタルサイン・
生体情報モニターの読み方
2限：有病者の歯科治療 | 4. 1限：歯科治療時の全身的合併症
2限：救急救命処置 |

3. 教科書：歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学

4. 評価の方法：単位試験

5. 授業時間数：15時間

7. 教員実務経験概要：歯科医師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、歯科衛生士として必要な全身管理や基礎となる呼吸・循環に関する基本的事項を修得し、口腔領域特有の麻酔方法や精神鎮静法の内容が理解できるよう指導している。

患者支援論

1. 目的

- ①対象となる人間の特徴を理解し、対象に合わせた支援が理解できる。
- ②専門職としての支援を考えることができる。

2. 授業計画

	内 容	
1回	健康とは：健康の定義とウェルネスの概念	講義
2回	看護とは：看護の定義と活動の場	講義
3回	看護の対象：人間のライフステージ	講義
4回	看護の対象：対象の尊厳や個別性について	講義
5回	安全安楽の技術：安全安楽とは	講義
6回	安全安楽の技術：バイタルサインの把握 急変時の対応	講義
7回	バイタルサイン測定 体位と移動技術	演習
8回	吸引の手技、吸引の必要性和注意点の理解	演習

3. 教科書：プリント配布

4. 評価の方法：出席、授業態度 および単位試験および課題レポート

5. 授業時間数：15時間

7. 教員実務経験概要：看護師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

私立病院において看護師業務に従事した実務経験を活かし、対象となる人間の特徴と、対象に合わせた支援が理解できるよう指導している。

小児歯科学

1. 目的

小児歯科学は、成長発育過程にある顎口腔領域を理解し、これらをより健康に育成することを目的としている。「子どもは大人を小さくしたものではない」と言われるように、小児歯科医療には特異性があり、小児の歯科治療および診療介助を行うためには十分な知識および技能が必要とされる。本講義では、安全・安心に十分配慮した小児歯科診療および診療介助を行うために、小児の成長発育に則した歯科的知識、小児の行動への対応を修得することを目的とする。

2. 授業計画：講義

- 1) 小児歯科学概論 心身の発育
- 2) 顎顔面および歯列・歯の発育
- 3) 診療時の小児および保護者への対応法
小児の口腔保健管理法
- 4) 乳歯および幼若永久歯の特徴
乳歯および幼若永久歯のう蝕とその予防法
- 5) 小児歯科診療における診療補助（乳歯および幼若永久歯の歯冠修復、乳歯の歯内療法）
- 6) 小児歯科診療における診療補助（幼若永久歯の歯内治療、咬合誘導）
- 7) 小児歯科診療における診療補助（外科的処置、外傷処置）
小児の口腔疾患（歯周疾患、口腔軟組織の異常と疾患）
- 8) 総復習

3. 教科書：新・歯科衛生士教育マニュアル 小児歯科学（クインテッセンス出版）

4. 評価の方法：単位試験、小テスト、出席状況出席および授業態度により総合的に評価する。

5. 授業時間数：30時間

7. 教員実務経験概要：歯科医師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、小児の成長発育に則した歯科的知識、小児の行動への対応が修得できるよう指導している。

歯科補綴学

1. 目的

歯科補綴学の基本は歯質が崩壊あるいは歯や顎が欠損した場合に、人工装置を用いて修復することにより機能や形態の回復をすることを探求する学問である。そのために必要な基礎知識、補綴歯科治療の特徴や方法、歯科補綴装置の種類および製作法などについて理解することが本講義の目的である。しかし、近年回復のみならず欠損などによる継発疾病予防の観点から、歯科衛生士には診療補助だけではなく、患者指導や装着後の維持管理等への関与が求められている。これらへの理解が深まることも期待する。

2. 授業計画：講義

- 1 歯科補綴学の概要と基礎知識
- 2 歯の欠損に伴う障害
- 3 補綴歯科治療の検査・診断
クラウン・ブリッジの基礎知識
- 4 クラウン・ブリッジの臨床ステップ
- 5 有床義歯の基礎知識
- 6 有床義歯の臨床ステップ
- 7 インプラント
補綴装置の補修
- 8 患者指導・その他

3. 教科書：「歯科補綴学」（医歯薬出版）

4. 評価の方法：単位試験

5. 授業時間数：30時間

7. 教員実務経験概要：歯科医師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、補綴歯科治療の基礎知識、特徴や方法、歯科補綴装置の種類および製作法などについて理解できるよう指導している。

社会保険事務

1. 目的

医療保険の内容を理解し、診療室での業務として積極的に参加できる歯科衛生士の養成。

2. 授業計画：講義

授業日程 1時間30分 計8回これを1日3時間4回実施する

社会保険事務資料より作成した小テストを授業前半に実施後、解答及び解説を行う。

後半は資料にて解説、その内容について次回授業前半に小テストを行う。

カルテ、歯科衛生士業務記録等記載実地訓練等を行う。

3. 教科書：資料配布

資料：1. カルテ、1号用紙、2号用紙、レセプト等

2. 歯科衛生士業務記録

3. 診療報酬点数早見表 (①～④)

4. 処方せん、情報提供書、その他

4. 評価の方法：各小テスト及びカルテ記載等による添削

5. 授業時間数：15時間

7. 教員実務経験概要：歯科医師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、医療保険の内容が理解できるよう指導している。

障害者歯科学

1. 目的

障害者歯科学は、臨床の場で特別な配慮を必要とする患者さんに対し、安全で安心な障害者診療および診療介助、トレーニング、リハビリテーションを行うために、その概念や特性を理解し、口腔の健康の回復や口腔ケアを通して健康増進と機能回復だけでなくQOLの向上につなげるための知識と理解を深め、その対応と役割を習得することを目的とする。

【一般目標】

- ① 障害者歯科診療の必要性を理解する
- ② 障害者歯科診療における、障害の種類・重要度・合併疾患をはじめとする多様な特徴や特性を理解し、専門性の高い医療知識を習得した「考える衛生士」を目指す
- ③ 障害者歯科診療における、「障害者」の概念の変化と、それに伴う社会背景を理解し、支援の専門性の高さや多職種連携とチーム医療の必要性を理解する

2. 授業計画：主にスライドを使用した対面での講義形式で行う。マークについての講義ではプリントを配布するので、その時には色鉛筆を準備すること。講義内容を以下に記す。

1. 概論

- (1) 概念
- (2) 分類／社会背景／根拠法令など

2. 各論

- (1) 疾患について
- (2) 歯科治療への導入から定期的なメンテナンス、日常の口腔衛生管理（口腔ケア）へ
- (3) 多職種連携／地域医療連携

3. 教科書：歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 医歯薬出版
新・歯科衛生士教育マニュアル 小児歯科学 クインテッセンス
(小児歯科学の教科書と同じものを使用する)

4. 評価の方法：筆記試験にて採点100点満点中60点以上を合格とする
宿題、レポート、出席状況、実習状況を加味する

5. 授業時間数：15時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院、大阪府歯科医師会障がい者歯科診療所において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、障害者診療および診療介助・トレーニング・リハビリテーションを行うために概念や特性を理解し、対応と役割が習得できるよう指導している。

感染予防学

1. 目的

- ・感染対策の基本的な知識を身に付け、医科と同等レベルで習得し、患者の状況や場面に応じた感染対策を適切に実践することができる。さらに歯科診療において知っておくべき各感染症を理解した上で歯科の特殊性を踏まえた感染対策を習得する。加えて職業感染防止対策についても習得する。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する最新情報、歯科医療上の注意点と対策について理解する。

2. 授業計画：講義

1	感染予防対策の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症について ・感染成立の輪/感染（保菌）と感染症 ・標準予防策（スタンダードプリコーション） ・感染経路別予防策 ・感染性廃棄物 ・洗浄・消毒・滅菌について
2	感染予防学と歯科医療者が知っておくべき感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全通知、感染症法における感染症の分類・感染予防対策の意義 ・MRSA、B型肝炎、C型肝炎、梅毒、HIV感染症、新型コロナウイルス感染症等についての理解
3	医療関連感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科受診患者における感染症の実態 ・感染予防対策の目的 ・感染経路別予防策の理解 ・標準予防策（スタンダードプリコーション） <ol style="list-style-type: none"> 1. 手指衛生の必要性和WHOの5つのタイミングの理解 2. 個人防護具： <ul style="list-style-type: none"> PPEについての理解と実践・習得（手袋・エプロン・ガウン・ゴーグル・マスクなどの必要性） 3. 歯科の特殊性に特化した感染対策の習得（特に飛沫・エアロゾル対策、ハンドピースは患者ごと、印象物の取り扱い、バリアテクニック、ゾーンニング等） 4. 歯科用ユニットの管理

4	洗浄・消毒・滅菌	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄・消毒・滅菌の定義と方法の理解 ・スποルディングの分類の理解 ・消毒薬、消毒方法の種類と各々の特徴についての理解 ・滅菌方法の種類と各々の特徴の理解 ・滅菌物の管理と各インジケータの理解 ・歯科の特殊性に特化した感染対策の習得（ハンドピースの滅菌、歯科用機械の滅菌、印象物の消毒、等）
5	医療廃棄物の処理	<ul style="list-style-type: none"> ・感染性廃棄物の処理についての習得 ・バイオハザードマークの種類とその意味
6	職業感染防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・職業感染の定義の理解 ・血液・体液曝露によるB型肝炎、C型肝炎、梅毒、HIV感染症の感染リスクの理解 ・針刺し・切創の防止対策の理解と実践。（リキャップの禁止） ・血液・体液曝露発生時の処置の習得
7	動画の供覧	<ul style="list-style-type: none"> ・針刺し・切創/血液・体液曝露関連 ・手指衛生の重要性について

3. 教科書：「やさしくわかる！感染対策 実践ガイド」 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験

5. 授業時間数：15時間

7. 教員実務経験概要：歯科医師

8. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、感染症を理解した上で感染対策・医療関連感染対策が習得できるよう指導している。

歯科予防処置論 II

1. 目的

歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を修得する目的と意義を理解するために、その概要について学ぶ。

2. 授業計画

1. ルーペ（講義・模型実習・相互実習）
2. 手用スケーラー（講義・模型実習）
3. 手用スケーラー（講義・模型実習）
4. 手用スケーラー（模型実習）
5. 手用スケーラー（模型実習）
6. 手用スケーラー（手技テスト）
7. 手用スケーラー（相互実習）
8. シャープニング
9. シャープニング
10. シャープニング
11. パワースケーラー（講義・模型実習）
12. パワースケーラー（講義・模型実習）
13. パワースケーラー（模型実習）
14. パワースケーラー（相互実習）
15. まとめ・単位試験

3. 教科書：歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版
歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度

5. 授業時間数：60時間

6. 担当教員：専任教員

7. 教員実務経験概要：歯科衛生士

8. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、歯科予防処置についての専門知識・技術・態度を修得する目的と意義が理解できるようその概要について指導している。

歯科診療補助論 II

1. 目的

歯科診療全般にわたる基礎知識を活用し、臨床実習における実践力を身に着けるために知識を深め、基本的補助技術を習得する。

2. 授業計画

1. 印象材の取り扱い（相互実習・模型作成）
2. 印象材の取り扱い（相互実習・模型作成）
3. 印象材の取り扱い（精密印象材・模型実習）
4. ラバーダム防湿法（講義、マネキン実習）
5. ラバーダム防湿法（マネキン実習）
6. ラバーダム防湿法（相互実習）
7. 暫間被覆冠作製 I
8. 暫間被覆冠作製 II
9. 歯内療法における歯科診療補助（セッティング含む）
10. 保存治療における歯科診療補助（セッティング含む）
11. 補綴治療における歯科診療補助（セッティング含む）
12. 口腔外科における歯科診療補助（セッティング含む）
13. 矯正歯科における歯科診療補助（セッティング含む）
14. 全身疾患をもつ患者と診療補助
15. まとめ、単位試験

3. 教科書：歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論

医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ 歯科材料

医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ 歯科機器

医歯薬出版

ポケットマニュアル 第2版

医歯薬出版

イラストと写真でわかる歯科材料の基礎

永末書店

4. 評価の方法：単位試験・実技試験評価・出席率・授業態度（忘れ物、提出物など）

5. 授業時間数：60時間

6. 担当教員：専任教員

7. 教員実務経験概要：歯科衛生士

8. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院および病院において歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、歯科診療全般にわたる基礎知識を活用し、臨床実習における実践力を身に着けるために知識を深め、基本的補助技術が習得できるよう指導している。

歯科保健指導論 II

1. 目的

歯科保健指導の難しさは、単に知識の伝達だけでなく、相手の生活態度や習慣を変えなければならないこと、さらに指導する相手が一定ではない点である。指導にあたっては各年代に応じた配慮と個人的な状況をふまえた指導が要求される。

- ① 指導の裏付けとなる専門的知識をもつ。
- ② 指導する具体的な手段や方法を十分に理解する。
- ③ 相手に伝達できる技術を身につける。

2. 授業計画

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 歯科衛生アセスメント | 9. 高齢者の摂食嚥下とりハビリテーション① |
| 2. 災害時の歯科保健医療 | 10. 高齢者の摂食嚥下とりハビリテーション② |
| 3. 口腔機能管理に関する指導 | 11. 介護施設実習媒体作成 |
| 4. 口腔機能評価実習 | 12. 介護施設実習媒体作成 |
| 5. 健康に関わる地域の役割（老人保健） | 13. 介護施設実習媒体作成・練習 |
| 6. 要介護高齢者の歯科保健指導実習 | 14. 介護施設実習媒体作成・練習 |
| 7. 歯科衛生介入実習① | 15. 媒体発表 |
| 8. 介護施設実習媒体作成 | |

3. 教科書：歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版
歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版
歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 医歯薬出版
歯科衛生士のための摂食嚥下りハビリテーション 第2版 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度・レポート

5. 授業時間数：60時間

6. 担当教員：専任教員

7. 教員実務経験概要：歯科衛生士

8. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院および保健センターにおいて歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、保健指導の裏付けとなる専門的知識の習得と具体的な指導手段・方法の理解、伝達技術が身に付けられるよう指導している。

う蝕予防処置

1. 目的

う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識・技術および態度を習得する。

2. 授業計画：講義および実習

1. 概要
2. 基礎知識①
3. う蝕活動性試験①
4. う蝕活動性試験②（相互実習）
5. う蝕活動性試験③
6. フッ化物の基礎知識①
7. フッ化物の基礎知識②
8. フッ化物の基礎知識③
9. フッ化物の応用実習①（相互実習①）
10. フッ化物の応用実習②（相互実習②）
11. 小窩裂溝填塞法
12. 小窩裂溝填塞法実習（相互実習）
13. メインテナンス
14. まとめ
15. 単位試験

3. 教科書：歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度

5. 授業時間数：60時間

6. 担当教員：専任教員

7. 教員実務経験概要：歯科衛生士

8. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、う蝕予防のために必要な専門知識・技術・態度を習得できるよう指導している。